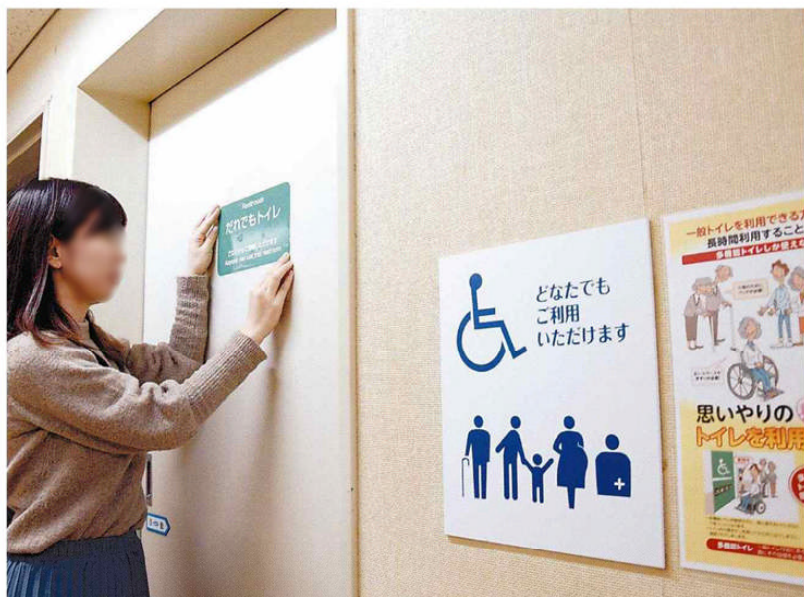




年 組 名前

道新でワークシート



トイレ「多目的」⇓「だれでも」に

男女の利用区分廃止

函館市本庁舎 性的少数者に配慮

函館市は市役所本庁舎にある多目的トイレについて、試験的に男女別を指定しない「だれでもトイレ」に変更した。性的少数者（LGBT）に配慮した施策の一つ。市は昨年3月に策定した「男女共同参画基本計画」でLGBTの理解促進を打ち出しており、今月にLGBTの啓発パンフレットを発行したほか、市が発行する証明書の性別欄削除の検討も進んでいる。

（田中華蓮）

多目的トイレは1階に2基、8階に2基あり、これまでは「男性用」「女性用」と区別していた。これらを20日に男女別のマークを取り外して「だれでもトイレ」とした。市民部は「あの人には当事者だ」という無用な詮索を防ぐために、あえてLGBTの表記をしていない」と説明する。

また、当事者などから利用した感想を聞くこととホームページ上で匿名でのアンケートも実施。トイレ内にQRコード付きカードを置くなどアクセスしやすくし

「だれでもトイレ」と名称を変更した函館市役所本庁舎1階の多目的トイレ

ている。

一方、3月に発行したパンフレットはA4サイズの三つ折りで、「LGBTってなんだろう」など5項目で構成。「男らしくない」などの何げない発言への配慮も盛り込んだ。3千部を市役所や商工会議所、病院などで配布している。

市民のLGBT施策への関心も高まっている。市によると、市民からの意見を寄せてもらう「市民の声」に、2月末から3月初めにかけてLGBT関連の質問が4件寄せられた。

中にはLGBTカップルを公的に認める「パートナーシップ制度」や、印鑑登録証明書などの性別欄削除などを求めるものがあったという。

パートナーシップ制度は札幌市などが既に導入済みだ。函館市は印鑑登録証明書などの性別欄削除について廃止を検討中で、市民部は「パートナーシップ制度は函館でも導入を検討したい。性別欄削除は条例改正が必要となるので、廃止できるものを整理した上で進めたい」と話している。

2019年3月29日（金）朝刊函館・渡島・桧山版16面（記事は再編集しています）

①「だれでもトイレ」とはどのような目的で作られましたか、記事を参考に書きなさい。

②LGBTへの配慮として、他にどのようなことが考えられますか。記事を参考に書きなさい。（記事以外で知っていることでもよい）